

シグマ委員会炉定数専門部会FP
ワーキンググループ会合議事録

日時 昭和49年6月20日(木) 13:00~17:00
場所 CRC研修ルーム1
出席者 大竹(富士電), 飯島(NAIG), 松延(住友)
桂木, 菊池, 西村, 田坂, 長谷川(原研)

配布資料

1. 各FP核種(193)の寄与(Pu-239 JNDC, Pu-239 Cook, U-235 JNDC), 菊池
2. Reactivity calculations of three integral samples in STEK and SNR for different cross section sets, 菊池
3. FP Nuclide Sample Worth 計算の必要性について, 長谷川
4. FPの中性子捕獲反応による原子数の変化がLumped FP Cross Section に及ぼす影響, 田坂

議事

1. 重要核種の再検討

配布資料1に基づいて重要核種の再検討が行なわれた。評価核種の範囲を拡げる際に参考となるので核データグループにも同種の資料(JNDC, Pu-239, Burn-up 180d, 720d)を送付することになった。

2. 積分測定によるJNDC Pseudo FP Cross Section の評価

配布資料2に基づいて議論された, 主な内容は

- (1) 積分測定の問題点 — H, Pu などの効果, O-thicknessへの外挿, 測定精度
- (2) Cost effectiveness — 積分測定からどの程度のfeed-backが期待できるか, 微分測定と比較してどうか

3. 積分測定による各 isotope ごとの JNDC FP Cross Section の評価
配布資料 3 に基づいて議論された。結論として計算をやることになり長谷川が検討することになった。なお ϕ , ϕ^* のデータについては菊池, 田坂で準備することになった。
4. 中性子捕獲の効果
配布資料 4 に基づいて議論された。中性捕獲の効果は小さいことが確認された。
5. 次回は, Separated isotopes の計算結果が得られてからとする。